平成２２年度　延岡たいよう支援学校　学校評価(各学部)

	目　　標	努　力　点	具体的な取り組み	評　価
小学部	○健康で明るい生活を送るため　に必要な基礎的体力と基本的生　活習慣を身に付ける。	・　家庭や社会との連携を図る。	○連絡帳や学級通信、送迎時、懇談会等を通して家庭と連携を図ることができた。 ○日中支援施設や病院への定期通院の同行を行い、様子を知ったり、情報を得ることができた。	5
		・　安全面へ配慮した支援を行い、のびのびと活動できる環境作りに努める。	○人工呼吸や AED の使い方、プールで事故が起きた時のシミュレーションや監視体制等の研修をしっかりと行い、児童の安全面に配慮した。 ○グループ学習では、関わっている職員全員で、児童全員を支援指導していくようにして、安全管理に努めた。	4
	○友達や先生と積極的に関わる力を身に付ける。	・　個に応じた適切な支援環境を整え、効果的な指導を図る。	○教科学習では、児童の実態に合わせ学習グループを細かく編成して学習を行った。 ○児童の興味のある教材を扱ったり、実物や写真や絵、文字等を工夫し視覚支援を行った。 ○児童の実態に合わせ、教室のレイアウトを行い、学習環境を整えた。	4
		・　集団学習を積極的に取り入れ、様々な人との関わりを深め、意思を伝えようとする意欲を育てる。	○集団活動では子どもが「楽しむ」活動を念頭に置き、子ども同士で関わるよう慮したり、活動内容や支援方法を工夫したりした。また、自分の気持ちを伝えられるよう、日常生活の中で、「伝わる喜び」や「伝えること」を理解させたり、適切な会話の練習を行ってきた。	3
	○いろいろなことに興味・関心をもち意欲をもって取り組む。	・　校内外での体験学習や交流を積極的に取り入れる。	○名水小学校とは、全体交流でお互いにソーラン節を披露したり、学年間交流でプールや造形活動等を行い、有意義な活動となった。 ○居住地校交流は、昨年度２名から今年度７名の実施となった。ほとんどの交流でお互いにとって有意義な交流となり、次年度も継続して行っていく予定である。 ○ボウリング場やショッピングセンター、牛乳屋さん、郵便局等で、様々な体験を通して。決まりや場に応じた行動、買い物の仕方や働く人について学ぶことができた。 ○　わかあゆ支援学校や、ととろ聴覚支援学校との３校合同ふれあい交流を実施した。平成２４年度に向け、児童生徒、職員共にお互いを知るよい機会となった。	5
		・　個別の指導計画を作成・活用し、指導と評価に努める。	○１学期に保護者の願いを踏まえ指導計画を作成し指導を行ってきた。各学期毎に評価を行い、指導の改善を図り活用に努めてきた。今後は、指導内容や方法の妥当性をどう図っていくかが課題である。また、一人の児童に対して数人の目で考えたり、話し合う場が必要となってくる。	3
中学部	○運動や学習に自信を持って楽しく取り組む。	・健康の保持増進に努めようとする態度を育てる。	○体育の授業において、入り江を自ら立てた目標に向かって走ったり歩いたりする時間（チャレンジタイム）がある。その時間に、一人一人が意欲的に取り組めるよう各クラスで視覚的支援教材を活用し、自ら活動することができるように指導を行った。その結果、積極的に一人一人が取り組み健康の保持増進につながった。	4
		・心身の安定を図り、能力や特性等に応じた学習指導を行い、進んで運動や学習に取り組む態度を育てる。	○通常学級において、国語、数学は、習熟度別グループ学習を行っている。今後の生活において必要とする内容を中心に行い、お互いを意識しながら意欲的に学習に取り組む場面が見られた。	4
	○あいさつの週間を身につけて、友達や先生と積極的に関わる。	・日常生活全般において、あいさつ、返事、身だしなみ等の基本的生活習慣を養う。	○教師からの挨拶を意識的に心がけ指導を行った結果、気持ちの良い挨拶はできるようになってきた。しかし、目上の人への言葉遣いは不十分な部分も見られるのであらゆる学習の場面で繰り返し指導を行っていきたい。	2
		・集団の中で教師や友達同士の関わりを通して、よりよい対人関係を培う。	○重複学級全学年合同で行う自立活動の時間が週２時間設定されている。活動内容の工夫もあり、どの生徒も見通しを持って参加し、その活動内容の中でよりよい対人関係を培うことができた。	4
	○働くことへの関心や意欲をもち、将来の社会生活に役立つ知識や技能を身につける。	・作業学習や職場体験学習等を通して、働くことや将来の進路に関心をもたせる。	○作業学習（リサイクル班、工芸班）では補助具を開発し指導を行うことにより、スムーズに作業を行うことができるようになった。昨年度より職場体験学習を行うことにより、生徒の可能性や課題を知る良い機会となっている。生徒の中には働くことや自分の進路について真剣に考えることができたかどうか難しい生徒もいたと感じた。しかし、学校を離れて作業を行い指導員や利用者の方と交流できたことは貴重な経験であると感じた。	4
	○文化的な体験学習やリサイクル活動を通して、多様な文化に関心をもち、地域の人々との交流を深める。	・文化体験学習や交流学習及びリサイクル活動の充実を図り、見聞を広げつつ地域とのつながりを深める。	○文化体験学習（茶道）では日本の文化にふれ回数を重ねる毎に学習の成果が感じられ見聞を広げることのできる内容であった。交流教育は直接交流（プール交流、餅つき交流）、間接交流（文化祭、ビデオレター等）を通してお互いを理解する機会を良い雰囲気の中、自然な形で行うことができた。リサイクル活動では、地域の方々の協力的な関わりが印象的で、その様子は生徒にも伝わり、きちんと挨拶、お礼状を渡したりする活動を行うことができ地域の方とのつながりを感じることができた。	4

高等部	重点目標 「自分からあいさつができる。きまった時間におくれない」	・生徒の発達段階・特性に応じた学習指導を行い、一人一人の能力の伸長・開発に努める。	○学年の実態に合わせて、国語・数学等の学習をグループ別に行う学年もあり、生徒の集中力が高まるなどの成果がみられた。次年度は、新入生オリエンテーションにおいて、実態把握を行い、生徒の実態把握をより丁寧に行っていく。	3
		・日常生活を通して、社会生活の習慣及び身辺処理能力の一層の定着を図る。	○日常生活の指導において、清掃に対する生徒達の意識が高まっている。教育活動全体を通して、身辺処理能力を高めるよう各教科等においても整理整頓等を意識している。生徒達への定着は、高等部 3 年間の長期計画を連携をとって取り組んでいくことが課題である。	3
	①義務教育で習得したことを、さらに深め発展させる	・積極的に学習に参加し、最後までやり遂げる態度を身につけさせる。	○ 1 学期当初は、離席の目立った生徒達が 3 学期になり、離席をすることが少なくなってきた。受容することを職員の共通理解として、支援していたことの成果だと思う。課題としては、生徒が自主的に学習に取り組めるように、支援していくことである。	3
		・個々の生徒生徒の実態に応じて、具体的な指導法を工夫し、意欲的な活動を促すように努める。	○自立活動等の学習においては、今後、さらに専門性を高めて取り組んでいく。通常学級の生徒においての自立活動の取り組みにおいての時間設定が今後の課題である。	3
	②社会生活に必要な基礎的な知識や技能を定着させる	・集団生活を通して、社会性や豊かな人間性を育む。	○学年での取り組みや学部全体として活動する委員会活動、ジョイタイム等において、生徒達が行事を企画する場面を教師が設定してきた。生徒達が試行錯誤する良い取り組みであった。	4
	③より良い対人関係や勤労の態度を養い、学校から社会生活への移行を図る	・生徒の興味・関心に基づく学習活動や、交流及び共同学習などの体験的な学習を通して、自ら考え、主体的に判断する資質や能力を育てる。	○交流及び共同学習においては、延岡工業高校、門川高校と担当職員が打合せを行い、両校の本校生徒の受け入れが、親切丁寧で、お互いの生徒達が、パソコンを使ってのカレンダーづくり、また、お互いが積極的に会話を行い有意義な取り組みを行うことができた。	4
		・作業学習や現場実習等を充実させ、作業能力の向上を図るとともに望ましい職業観、勤労観を育成する。	○作業学習では、通年で作業班別研修を行い、教材の研修等を行ってきた。次年度からは、作業学習においても、さらに実態を把握して、生徒の実態に応じた取り組みを行うように共通理解をはかっている。メンテナンス班において、土々呂幼稚園清掃を行い地域への奉仕する気持ちを育てるという意味でもよい取り組みであった。	4
	④適正な進路指導を推進する。	・個に応じた適切な進路指導を推進し、自立に向けた能力の伸長と定着に努める。	○進路指導主事を中心に、四者面談等を定期的に設定し連絡連携をとるように努めた。自立に向けた取り組みとしては、学部全体で挨拶等のマナーも支援するように取り組んできた。生徒達への定着は、今後も高等部生活において計画的に取り組んでいくことが課題である。	4

評価基準

非常によい	よい	普通	もう少し	不十分
5	4	3	2	1

平成２２年度　延岡たいよう支援学校　学校評価（各校務部）

	目　　標	努　　力　　点	具体的な取り組み	評　価
教務部	○児童生徒の実態に即した教育課程の編制・実施に努める。	・児童生徒の実態に即した教育課程の編成と実施・評価に努める。	○学部を単位に、次年度の教育課程についての検討を進めている。 ○２４年度の統合を視野に入れ、「知的教育部門の教育課程の在り方」について、教育課程検討委員会を定期的に開催するため、次年度計画を全体確認した。	4
		・新学習指導要領への改訂を踏まえた教育課程の編成を進める。	○各学部とも、新学習指導要領で示された内容に基づいて教育課程を編成することができている。	4
	○校務部、学部間の連絡調整を密にし、適切な教育計画の立案と円滑な運営を実施する。	・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成・活用・評価の徹底を図ると共に、保護者への説明を行い家庭との連携を図る。	○参観日等の機会を利用し、保護者への提示・説明を行うことができた。 ○次年度は、早期に保護者の願い等を把握するため、４月に個別保護者懇談週間を計画している。	4
		・教務事務及び諸表簿の整備・管理に努める。	○学部教務が諸表簿の整備・管理にしっかりと努めている。	4
	○関係機関、保護者、地域との連携を密にし、教育成果の向上を図る。	・学部、校務部と密接な連絡調整を図り、交流教育等教育活動全般の充実を図る。	○各学部とも計画に従って交流教育を実施することができた。ただ、これの所管が複数にまたがっているため報告業務に混乱が見られた。年度末にこれの確認を行う。	4
		・人権教育研修を計画・実施し、実践に生かせるよう努める。	○外部講師を招聘し職員研修会を実施。実施後のアンケートに「保護者にも聞かせたい内容だった」との感想が複数あり、次年度はこの部分も考慮した計画が必要である。	4
学習指導部	○児童生徒の特性に応じた学習の場を設定すると共に、教育内容の充実を図る。	・学習教材についての情報の収集と紹介に努める。	○教材展を実施して、学校内外の自作教材や購入教材の紹介。自作教材データベースを作成し、学校ブログで紹介した。	3
		・学習教材を整備し、有効的活用を図る。	○要望に沿って購入・補充を行うことができた。	3
		・視聴覚室機器の整備と有効的活用を図る。	○視聴覚機器のリスト柵清し、通し番号等の添付等の実施。付属品等の紛失なくなる。	4
		・掲示教育の充実を図る。	○各学部で季節の壁面や児童生徒作品の展示など、様々な活用がなされた。	3
	○かもめ祭や作品展等の発表の場を通して、児童生徒の学習意欲の向上に努める。	・校内・校外作品展の計画を通して、児童生徒の作品を発表する場を設ける。	○延岡・日向等の福祉祭り・アート展・校外作品展等様々な作品展に作品を展示した。 ○学校の自主企画「校外作品展」実施、宮崎銀行土々呂店・土々呂郵便局に展示した。	4
		・各種の鑑賞会を計画・立案し、円滑な運営に努める。	○「優れた舞台芸術鑑賞事業」の助成を受け、劇団かかし座による影絵劇の上演。	4
		・図書を整備・充実し、有効的活用を図る。	○２・３学期にやまびこ号来校。県立図書館の図書を借りることができた。	4
		・情報機器の整備と有効的活用を図り、教育の情報化と情報教育の推進に努める。	○学校ブログを設置し、週１回程度更新。活動について保護者や地域など情報発信。 ○個別の指導計画をデータベースで管理し、効率的に運用を行った。	4
		・かもめ祭を計画・立案し、円滑な運営に努める。	○今年度はインフルエンザ等の大きなトラブルもなく、実施することができた。	4
生徒指導部	○児童生徒の理解に努め、個々に応じた指導の徹底を図る。	・全職員が連携を密にしながら児童生徒の実態を把握し、その特性に応じた生徒指導を行い、問題行動の防止に努める。	○問題行動が発生した際には、学部主事、学級担任と連携し、指導にあたることができた。指導にあたっては、他の部にも協力を求め問題行動の再発防止に努めた。	4
	○集団生活を通し、望ましい生活態度の育成に努める。	・学園や家庭及び地域社会の理解と協力のもと指導の一体化を図る。	○ひかり学園やあかつき学園と密に連絡をとりながら、共通した認識の下指導した。	4
		・楽しく安全に生活する力の向上を目指し、遠足・避難訓練等の企画運営を行う。	○地震による津波の被害を想定し、校外にある高台への避難訓練を行った。避難もスムーズに異動できた。	3
	○集団活動を充実し、児童生徒の自主的な活動を促進する。	・自主自立の態度の育成を目指し、児童生徒会活動や集会活動、委員会活動を活性化するとともにリーダーの育成に努める。	○生徒会行事の企画運営をさせることで自分たちで失敗や改善点を考えさせ、次の企画運営に生かすことができた。全体での活躍の場を増やすことで自信につながった。	4
保健体育部	○体力の向上と健康的な生活の習慣化を図る。	・日常の健康観察を充実させ、早期発見と予防に努める。	○全体に対して啓発や声かけを常時行ったことにより、検温や集団行動時でのウエルパス活用が日常化してきた。	4
		・事前指導の充実に努め、検診検査・測定等に自ら進んで参加する態度及び生涯を通して健康的な生活を送る態度を養う。	○視覚教材の準備、児童生徒に合わせた事前指導の工夫により、１００％近い生徒の受診ができ、毎回の声かけにより検診時の挨拶も自ら挨拶できる生徒が増えた。	4
		・健康診断の実施と事後措置を適切に行い、児童生徒の健康管理に努める。	○肥満指導、肥満に関するアンケート、歯磨き指導、歯磨き週間を行ったことで、児童生徒、保護者、職員の意識が高まった。	4
	○安全管理の徹底と健康の保持増進に努める。	・学校体育を系統的・計画的に実践し、身体活動や運動機能の向上を促すと共に調和のとれた心身の発達を目指す。	○年間計画をもとに授業を進め、各学部、体育職員で情報交換を行っている。 ○身体活動や運動機能の向上を目指し、児童生徒にあった運動機材を体育職員全体で検討し、活用することができた。	3

平成２２年度　延岡たいよう支援学校　学校評価

	目　　標	努　力　点	具体的な取り組み	評　価
		・児童生徒の実態に応じた継続的な運動の実践を通して、体力向上を図る。	○各学部の体育職員と情報交換を行い、児童生徒の実態に応じてモチベーションを高める授業、教材等工夫した授業ができた。継続的な運動の導入、発表の場の設定。	3
		・体育施設の整備・点検に努め、安全管理と活用を図る。	○事務部と月１回の安全点検を行う体制。施設設備の整備、部員によるプール管理。	4
	○給食の衛生管理と望ましい食生活の習慣化を図る。	・給食指導を通して、望ましい食生活の態度や習慣を養う。	○生徒主体による給食週間の実施。給食アンケートの実施と給食委員会における検討・改善。	4
		・衛生管理体制および食事の衛生安全指導の徹底を図る。	○ランチルームの手洗い場の整備、ウエルパスの活用。	4
進路指導部	○児童生徒の特性に応じた進路指導を推進する。	・児童生徒を正しく理解し、それぞれの学習活動における進路指導を充実する。	○小中高の一貫した進路学習の策定を行った。また卒業生、外部講師を招聘した進路学習を実践した。進路に関する手引きの作成及び進路相談、説明会の充実を図った。	4
	○関係諸機関や地域社会との連携を深め、地域就労への理解啓発を推進する。	・校内外での体験学習やぷれジョブ、福祉サービスの利用を通じて、職業観や就労意欲の育成を図る。	○校外実習活動（集団活動、個別実習）の充実を図った。 ○福祉サービスの情報提供を適宜行った。	4
		・関係諸機関や卒業生の進路先との連携を充実させることで、多くの課題や情報を入手し教育活動へ還元する。	○関係機関との定期的な情報交換を行い、連携することができた。 ○会議、研修会での卒業生の生活での現状報告を全職員に行い、共通理解を図った。	4
		・児童生徒や保護者が卒業後の生活像と進路実現の過程を具体的に想像できるよう、広報活動の充実に努める。	○進路便りの充実（内容、発行等）を図った。 ○情報提供っこーなー（進路掲示板）の充実を図り、生徒が情報を得やすくした。	4
研修部	○教育課題研修を立案し、その研究を推進することで教育実践の充実を図る。	・教育課題に対する職員の意識を高め、日々の教育活動を活性化する研究の推進に努める。	○「自立する心と力」というテーマで３つの研究班に分かれ、自主活動、生活単元学習、作業学習の授業内容の研究・研修、指導法についての研修を行った。	3
	○障がいのある児童生徒の教育に関する専門性を高める研修を行い、教育活動の活性化を図る。	・研修内容の充実に努め、職員の専門性を高め、児童生徒の理解の推進並びに指導技術の向上を図る。	○校内全体で「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成についての研修、出張報告会による県外の状況や最新の情報提供、専門性向上研修会を実施した。	4
	○関係研究団体との連携を通して、本校教育の一層の充実、発展を目指す。	・県特研連知的障害教育研究部会の事務局運営の業務に努めるとともに、職員への情報伝達に努める。	○県特研連知的障害教育研究部会の理事会運営や各校との連絡調整、ホームページの更新作業など実施。全国特別支援教育連盟夏期宿泊セミナーの開催準備を行った。	4
環境整備部	○校舎内外の環境整備の充実を図り、よりよい学習の場としての環境作りに努める。	・校舎内外の環境安全点検及び清掃活動の充実を進め、校庭や花壇の整備活動に努める。	○学期１回の安全点検の実施。毎日の清掃活動の充実に努めた。高等部の委員会活動やメンテナンス班の美化推進を行った。	4
		・美化習慣・清掃強化週間を設定し、美化活動を推進する。	○年間５回設定し、美化意識の向上に努めた。	4
		・エコ活動を推進し、よりよい環境づくりに努める。	○中学部リサイクル活動への協力。分別回収の充実を図った。	4
渉外厚生部	○広報誌の発行や啓発活動を通して、特別支援教育への理解を深め、地域の人々との交流を推進する。	・本校教育の内容について、地域社会をはじめ、関係者の理解と協力を得るとともに、啓発活動に努める。	○年間行事を元に広報紙「あおい海」を年間３回の発行を行い、本校教育の実践などを紹介した。	3
	○関係諸団体、地域社会との連携を深める。	・本校の特性を十分考慮して、関係諸団体との連絡調整に努める。	○三役を中心にＰＴＡ連絡協議会等への参加、「家庭教育学級」に参加し情報交換を行った。	3
	○ＰＴＡ活動を推進する。	・ＰＴＡ各部の諸連絡を密にし、活動の円滑化を図る。	○三役を中心に各部の部長との連携を図り、年間事業を執り行うことができた。	3
地域支援部	○地域支援活動の充実と特別支援教育の理解啓発に努める。	・地域支援活動を通して、特別な支援を必要とする子どもや保護者、関係職員への援助を行う。	○通級指導教室への対応（生徒観察、諸検査等）を行うことができた。 困難ケースへの対応を専門家チームや児童相談所、市町村の子ども課と連携したい。	4
	○地域の保育・教育、医療、福祉関係との連携を深め、協力体制づくりに努める。	・地域の特別支援教育に関する情報収集や情報提供を行い、適切な就学指導や地域の特別支援教育のセンター的役割が果たせるよう努める。	○県北地区特別支援学校コーディネーター連絡会を主催して、就学前を対象とした研修、高等学校の連絡協議会を実施するなどして、地域連携の在り方を啓発してきた。	4
	○校内支援活動の充実に努める。	・解決・改善する必要がある校内の事例について、情報収集を行い、保護者や関係職員への援助などを充実させる。	○校内支援ケース会議などの支援ケース件数は、生徒指導部や進路指導部との連携による日常の取り組み、学担への支援体制が充実し、２年間でかなり減ってきている。	4
事務部	○効率的な予算の執行及び適正・正確な事務処理を図る。	・本校の教育目標に沿った、効率的かつ適正な予算執行に努める。	○購入については、必要理由及び最低限の必要数を聞き取り、注文することができた。	4
	○教育環境の整備及び財産管理の徹底を図る。	・施設・設備の充実及び環境整備・美化に努める。	○備品の現有確認及びシロアリ駆除や体育館入り口庇修繕、プレイルームカーペット張替等、予算要求を行い対処することができた。	4

平成２２年度

学　校　評　価

宮崎県立延岡たいよう支援学校